

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(Translation)

Citation 1: Japanese Utility Model Application No. 81759/1983 (JP  
U.M. Laid-Open Publication No. 186336/1984)

Title: Floor

Applicant: Yuncheas Industry A.S. (phonetically spelled), DK

1, 2, 3 ... floor material

4, 5 ... tongue

6, 7 ... groove

8, 9 ... recessed portion

10, 11, 12 ... fixing member

13, 14 ... projection

15, 16 ... tab

17 ... tip

18 ... bent portion

19, 20 ... undercut

公開実用 昭和59—

186336

CITATION

⑨ 日本国特許庁 (JP)

①実用新案出願公開

② 公開実用新案公報 (U)

昭59—186336

③Int. Cl.  
E 04 F 15/02  
15/04

識別記号 序内整理番号  
7130-2E  
7130-2E

④公開 昭和59年(1984)12月11日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑤末

エ市ストレーピー・エイエゼ・

エングドレーエット 5 著地

⑥実 願 昭58-81759

⑦出願人 ユンケアス・インドウストリー

⑧出願 昭58(1983)5月30日

ア・エーエス

⑨考案者 トアベン・レアベック・イエン

デンマーク国デーケー4600ケー

セン

エ市ヴェーアフツヴァイ

デンマーク国デーケー4600ケー

⑩代理人 弁理士 竹内三郎 外1名

## 明細書

### 1. 考案の名称 床

### 2. 實用新案登録請求の範囲

隣接する床材の下面には凹部が形成してあり、この隣接床材の下側には両床材の凹部に係合する上向突起部を設けた紋め具を張渡したことを特徴とする床。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は床に關し、特に、さねはぎによる最上層の仕上げボードとして好適なものに関する。

さねはぎ式の床は、作業中に床材がずれやすいため、正確な仕上げを望むのがむづかしく、相当の熟練を要していた。更には仕上がり後に左つてそれが生じ或いは隙間ができてしまう事態がしばしば生じていた。

本考案はこのような点に鑑み、特に熟練を要することなく、簡単な工法で床材がずれずに正確な

(1)

332

実用新案登録請求書



床仕上げをすることができ、しかも仕上がり後に床材のずれが生じたり、床材間に隙間が生じたりすることとのない床を提供すべくなしたもので、その要旨は隣接する床材の下面に予め凹部を形成し、この隣接する床材の下側に、両床材の凹部に係合する上向突起部を設けた締め具を張設したことにある。

以下一実施例として示した図面によりつゝ本考案を説明する。第1図は本考案に係る床の一部を、また第2図、第3図はこれに用いられる締め具の端部を示している。

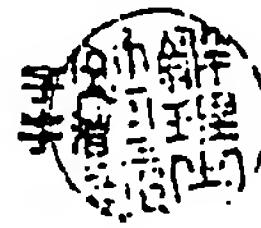
最上層の床は床材(ボード)1, 2, 3を任意形態によるさね4, 5とはぎ6, 7によつて連結設してなつてゐる。各床材1, 2の下面にはそれぞれ縦はぎ形態の凹部8, 9が形成してあり、凹部8には締め具10, 11が、凹部9には締め具11, 12が係合してゐる。締め具10, 11, 12はいずれも同一部材を用いており、この締め具11は適度な弾力性を有する例えば金属材にてなり、適巾で断面略上向コの字状板体となつてい

(2)

333

る。この両端部はさね形態の上向突起部 13, 14となつており、その一方の突起部 13 は側面に凹部 8 からの抜落防止用の爪 15, 16 を形成しあご形態をなして先端 17 に至つている。突起部 13, 14 間の締め具部分は、該突起部 13, 14 と逆の方向に折曲部 18 が形成されていて容易に弾性を発揮する形態となつており、この弾性を利用して隣接床材 1, 2 同志を互に引付け合い、また同時に突起部 13, 14 と凹部 8, 9 との間隔差（距離差）のある程度の相違を吸収する適応性を与えるクリップ的機能を有するものとなつてゐる。上記各床材 1, 2 には床材表面がぴつたり接触し合つて表面に隙間が生じないようにするために、さね 4, 5 上方の側端をアンダーカット 19, 20 して床材上縁を若干張出し形成しさねはぎ 4, 5 と 6, 7 に隣接床材同志を引付け合う余裕を与えるのが好ましい。

上記床材 1, 2, 3 の下の床敷設は通常一般的な手段によればよく、例えばフローティングフロアシステムや状況に応じてパーティクルボード、



コンクリート、PVC、リノリウム、古材のソフ  
トボード等の下床とする。

本考案の床は以下のようを方法で施工する。先  
ず床材一枚、または一列分壁際に敷くことが望  
ましい。この床材の下面の凹部には締め具の爪を  
有した突起部が打ち込まれ、該締め具の他の突起  
部側が床材側方に延出している。締め具は均等な  
間隔で置き、片側の突起部を次に並べる床材の下  
に来るよう揃えておく。例えば、初めの床材が  
第1図の1だとすると、次の床材は同じく第1図  
の2となる。図のように締め具11は突起部13  
が凹部8に固定されることによつて床材1に係合  
され、他方の突起部14は床材1のさね4と同方  
向に延出している。次の床材2は予め上記と同様  
に締め具12を係合した上で、床材1とびつたり  
連結する位置に並べ、連結した床材1, 2は下方  
に押しつけて、床材1から出ている締め具の突起  
14を床材2の凹部9に係合させる。この2番目の床材2の締め具12は当然のことながら床材1  
の締め具11とは交互にねるよう配置されなけ

(4)



ればならない。このようにして床仕上げが完了するまで床材を敷いていければよいのである。

左お、上記構成の一例寸法を挙げれば締め具の折曲部を伸ばしたときの内長 $127.2\text{mm}$ 、突起部の高さ $5.5\text{mm}$ 、締め具の側巾 $20\text{mm}$ 、床材表面巾 $129\text{mm}$ 、凹部の深さ $8.3\text{mm}$ 、その巾 $2\text{mm}$ 等である。しかし、本考案はこのようなことによつて限定されるものではなく、上記締め具の形態の変更、床材下面の凹部の数の増減等種々変形を包含するものである。

以上によれば、床仕下げ作業が比較的楽になる上、床材同志の結合が堅固になる。つまり、この構成によれば床仕上げの工程自体が床材同志の結合を堅固にしてゆくため、床材結合のための特別な作業は必要なくなるというわけである。床材下面の紋め具により、床材は仕上がり後も正しい位置に固定され問題になる程のズレが生じることはない。床材下面の凹部は縦のはぎなので、加工は容易である。また、紋め具は上向コの字状で、その突起部が個々の床材のそれぞれの凹部に適合で

きるようになつてゐるため、非常に簡単な物となつてゐる。この締め具の突起部のうち一本はあご状で固定具の役割を果たしており、床張りの作業中、連結する床材から突起部が離れないように支えているため、床仕上げの工程が容易になる。締め具は弾性があり、係合された床材に斜め方向の力を与えるので、隣接する床材同士が互いに近づき合い、連結が堅固になる。そのため仕上がり後の床材位置の安定が特によくなつてゐる。締め具の両突起部間にある一本又はそれ以上の折曲部により弾性が与えられ、非常に簡単な紋め具が可能になつてゐる。

こうして、本考案によれば、特に熟練を要することなく、簡単な工法で床材がずれずに正確な床仕上げをすることができる、しかも仕上がり後に床材のずれが生じたり、床材間に隙間が生じたりすることのない床を提供することができる。

以下に本考案の実施の態様を挙げる。

- (1) さねはぎ結合式の床材の下面に形成された凹部に突出部を有する締め具を係合し、該締め具

(6)

は隣接する床材一組ごとの間に渡つてゐる床材  
最上層で構成する床。

- (2) 凹部は縦のはぎである前記第1項記載の床。
- (3) 締め具は板状上向コの字形であり、その突起部が各々床材の係合する凹部に適合するものである前記第1項又は第2項記載の床。
- (4) 締め具の突起部の内、少なくとも一方はあと状となつていて、この突起部が床材から落け外れないよう固定具の役割を果しており、床敷き作業中においてもこの効果は大きい前記第1項又は第2項又は第3項記載の床。
- (5) 弾性のある締め具により床材に斜め方向の圧力を与え、床材が互いに引付け合うようにしたものである前記第1項又は第2項又は第3項又は第4項記載の床。
- (6) 弾性は突起部間の一又はそれ以上の折曲部によつて得られるようにしたものである前記第5項記載の床。

#### 4. 図面の簡単な説明

(7)



第1図は本考案に係る床の要部を示す端面図、

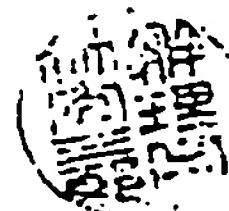
第2図は該床に用いられている締め具の一端部を示す正面図、第3図は第2図の左側面図である。

符号 1, 2, 3 ……床材、4, 5 ……さね、6,  
7 ……はぎ、8, 9 ……凹部、10, 11, 12  
……締め具、13, 14 ……突起部、15, 16  
……爪、17 ……先端、18 ……折曲部、19,  
20 ……アンダーカット。

出願人 ユンケアス インドウストリーダ エーエス

代理人 弁理士 竹内三郎

外1名



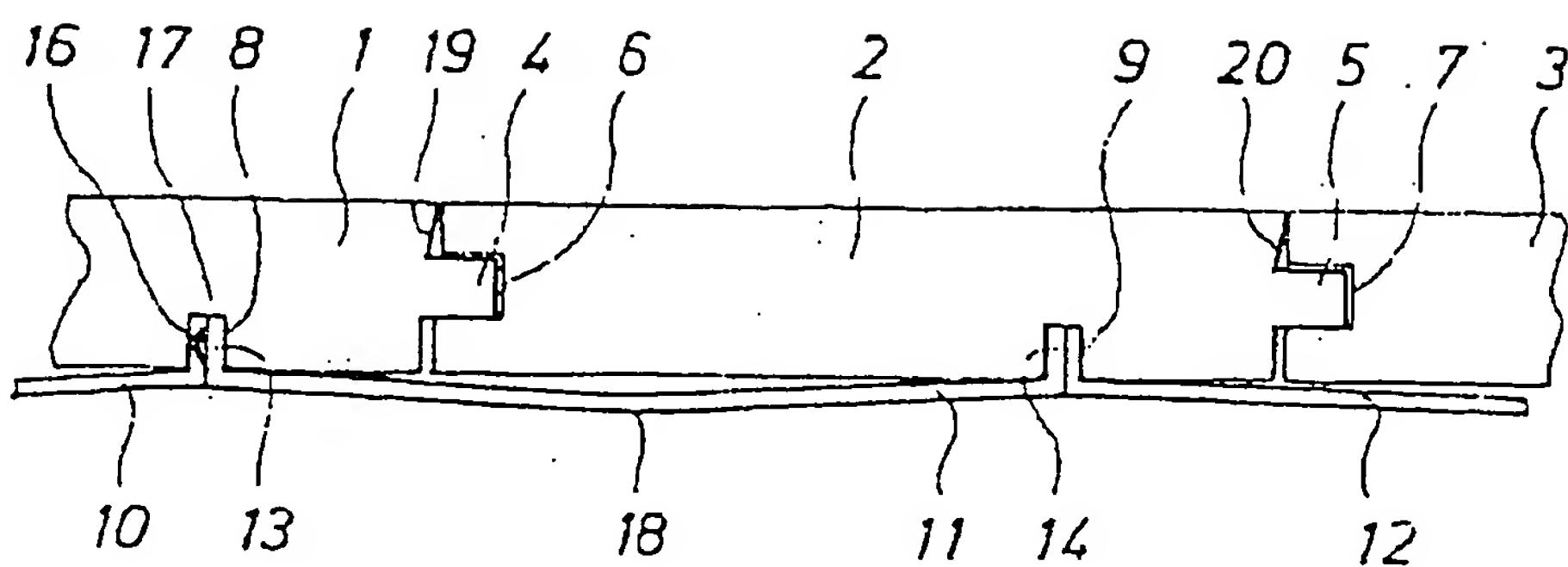


Fig. 1

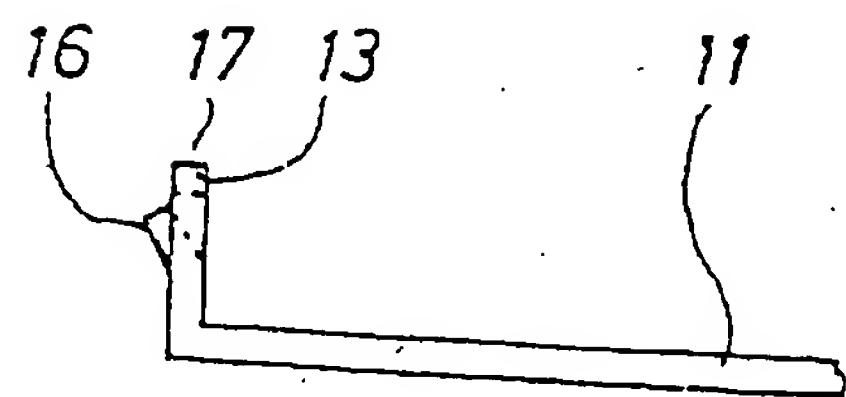


Fig. 2

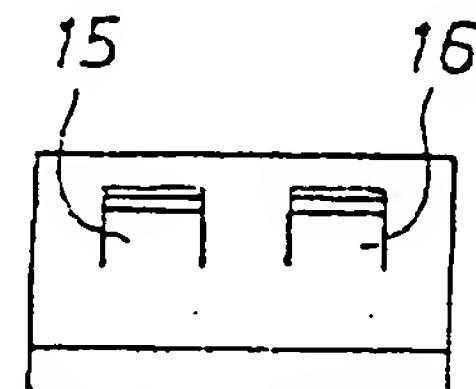


Fig. 3

代理人弁理士 竹内正郎

実開59-186336 340